５　具体的研究内容

（１）仮説ごとの具体的実践事項

≪仮説１≫【何を身につけるのかを明確にした授業づくり】

視点ア　児童が目的意識を持てるような**単元デザイン**の工夫

単元を通した課題（単元のゴール）を児童と共有する。単元を通した課題を設定し、児童が学んだことを活用したり交流したりする場を設定する。**１単位時間の学習は、単元のゴールを意識したものにする。子どもが学びを振り返り、どんな力が身についたのかを感じられるようにする。**

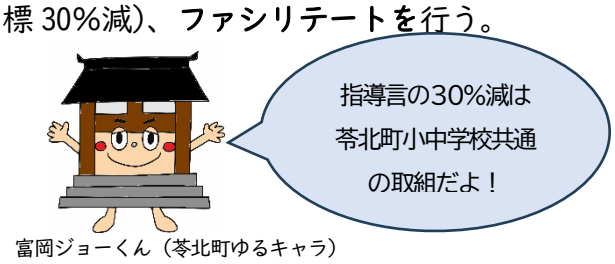
視点イ　**学習過程**の工夫

学習過程は、自分の考えを持ち、伝え合う姿を考慮し基本的に「課題把握　共同解決　①共同解決②　終末」とする。各過程では、以下のことに留意する。

過程	留意すること
課題把握	・児童の**「なぜ」「おそらく」**が生まれやすい導入を行い、課題は単元ゴールに迫るものにする。 ・１時間で何を学ぶのか分かる「めあて」を提示する。
共同解決①	・児童に**課題解決の見通し**を持たせる。必要に応じて、前時の振り返りや学習の足跡・ヒントカード・ICT などを活用し、何らかの自分の考えを持てるようにする。 ・**ペア・小グループなど学習形態**を工夫する。
共同解決（協働）②	・話し合うポイントを示し、**話し合いのゴールの姿を児童と共有**する。 ・話し合う方法を示し、**ICT・付箋・ホワイトボード・ワークシートなどを活用**する。 ・児童の学びが深まるような、見方を示したり、問い直しを行ったりする。
終末	・１時間で**何を学んだのか分かる「まとめ」**を提示する。 ・児童に**「１時間での自分の学び」「単元のゴールに近づいたこと」を客観視させる**ために振り返りをする。

※上記の学習過程を基本とするが、学年や、教科、単元にあわせて、適宜工夫することとする。

視点ウ　簡潔な説明･指示･発問　児童が自分たちで学びを進めるために、**指導言を極力省き**（目標 30%減）、**ファシリテートを**行う。



富岡ジョーくん（苓北町ゆるキャラ）

≪仮説２≫【自分の考えを持てるように個に合わせた手立て、交流する場に関する取り組み】

視点ア　自分の考えを持たせるための工夫

児童の実態把握に努め、**タブレット PC のグループ機能やヒントカードを使い、自分の考えを持てるようにする**ための手立てを準備する。（また、場合によっては、一人学びの前にペアやグループでの短い話し合いを取り入れる等、課題解決の見通しが立ってから一人学びの時間をとるようにする。）

視点イ　児童の学び方のスキルアップの工夫

児童が自分たちで学びを進めるために、「伝え方」「聞き方」「話し合い方」についての指導を児童に行う。１学期は、坂瀬川小の実践を参考に、「伝え方」「聞き方」「話し合い方」の定着を目指す。２学期以降は、話型は不要とする。

表２　「伝え方」「聞き方」「話し合い方」の指導の留意点

		低学年	高学年
伝え方	内容	**順序**立てて **理由**をあげて 確かめながら	**比べ**ながら **たとえ**ながら 事例を挙げながら
	方法	見せながら **指し示し**ながら	**囲み**ながら **書き**ながら
聞き方	内容	**話し手を見**ながら **うなずき**ながら	**大事なことを探し**ながら **話し手が伝えたいこと**を探しながら **聞きたいことの中心**を探しながら
	方法	**比べ**ながら 自分の考えをもつ **質問**する	**違いやよさ**を見つけながら **要約**する
まとめ方		比べる **共通点**を探す **相違点**を探す **分類**する	キーワードで**まとめる** 絵や図に表す **しぼる**

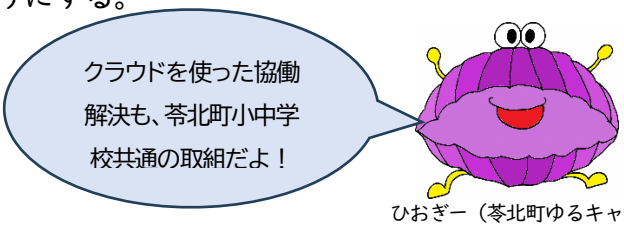
順序を示す言葉、相手の同意を得る言葉、考えをまとめる言葉、もっと詳しく聞きたい時の話し方などを発達段階に応じて一覧にして児童に示し、「伝え方」「聞き方」の指導に役立てる。また、友達の発言を聞く聞き方の指導も同時に行い、自分の考えと異なっていても受容的な態度や言葉づかいで話し合いができるようにする。特に２人組の話し方については、話型を示した練習をする。

視点ウ　ICT 機器の活用

児童がお互いの考えを伝え合うことができるようにするために、クラウド上のデータを使ったペア・小グループ等の共同活動を基本として話し合いを学習過程に位置付ける。

視点エ　少人数グループ学習（複式学習）の進め方の定着

都小卒業後を見通し、単式学級に生かせる少人数グループ学習の効果的な活用について追究し、各学習過程における児童の役割と発言の例を、教師が共通理解する。また、その例を児童に示しながら、多くの児童が体験できるようにする。



ひおぎー（苓北町ゆるキャラ）

（２）　日常的な取り組みについて

視点ア　都呂々小学びの一歩の徹底

① 学習に対する基本的心構えや準備について示した「都呂々小学びの一歩」を家庭に配布し、その徹底を図る。学習の持ち物、発言の仕方などについては日々指導を継続する。また、望ましい家庭学習の時間を発達段階に応じて示し、時間いっぱい家庭学習ができるように指導する。

② 明日への準備を行い、優先的にやるべきことがらを意識づけるため、帰りの会の時間に、「家庭学習シート」に当日の宿題や準備物について記録する時間を確保する。また、カードは１週間に一度保護者にも確認をお願いする。

③ 音読の取組

国語の時間は必ず３～５分の音読の時間を設定し、声を出して読み、発声を耳から聞き取ることを徹底する。音読中は児童の近くへ行き、声が良く出ていることや読む速さなど姿勢などを褒める。家庭でも「音読カード」を使った取り組みを行う。

④ 読書の取り組み

全校読書数 4500 冊を目標とし、週に一度は図書室へ向かうよう声をかけたり、児童が図書室に行く時間を確保したりする。また、児童が何を手にとっているかを教師が確認し、学習内容と関連の深いものや発達段階に応じた読書のスタイルについて指導を継続する。

⑤ 家庭におけるタブレット PC の活用

家庭学習でのドリル学習や総合的な学習の時間を初めとする教科等での調べ学習に取り組む。児童の活用状況を定期的に確認し、評価・指導を継続して行う。

視点イ　はげみ学習（思考力・判断力・表現力）

授業時間だけではなかなか確保しにくい、思考力・判断力・表現力の向上をねらう時間として、週１回朝活動時に「はげみ学習」の時間を設定する。はげみ学習では、NIE の取り組みをはじめ長文読解や発展的な問題などに取り組み、児童が時間をかけて一つの問題を考える時

間を確保する。また、身の回りのことや社会の課題に対する主体性を身に付けるための情報源の１つとして取り組む。

視点ウ　効果的な ICT 機器の活用

「ICT 活用研修パッケージ」を活用したり、一人一台端末を活用した共同活動や教材作成と学習成果物の蓄積と評価への活用を行ったりする等、具体的な活用法について日常的に交流しあう。また、近隣校や他地域の人々とオンラインで交流する学習を行う。

（３）　複式学級の授業スタイルづくりについて

視点ア　複式学級の基本的な授業スタイルについて学ぶ。

複式学級の基本的な授業スタイルについて、できるだけ多くの複式学級の授業スタイルについて学ぶ必要がある。また、複式学級の授業では、児童が学習を進めていく場合が多い。児童だけで学習を進めていくためには、どんな役割が必要であるかを教師が学び、どのような進め方していくとよいのか全体で考え、共通理解していく場を設けていく。

視点イ　へき地・小規模校の先進校の取り組みに学ぶ。

複式学級の指導を長年続けている学校の授業の様子を参観したり、複式学級の指導を経験している先生を招いたりして、指導のポイントを話し合ったり学んだりする機会を確保する。

視点ウ　複式学級の授業の課題を出し合い、話し合う場を確保する。

教師が複式学級の指導について見識を深めることは、本校の急務である。本校での複式学級の指導を行っている先生方から課題を挙げてもらい、皆で解決法を検討する機会を確保する。

先生たちは複式学級の指導の経験はありますか？ ご存知のとおり、毎日、2学年分の教材研究をしないと授業が進まないですよ。(子供の力を信じて、任せても)

れいほくくん（苓北町ゆるキャラ）

６　研究組織

校　長　―　教　頭

校内研修推進委員会
校長　教頭　教務主任　研究主任

校内研修

授業研究部
◎研究主任
１年担任
３・４年担任
５・６年担任

学習環境整備部
◎主任事務職員
養護教諭
特別支援教育支援員

◎は各部におけるリーダー

【授業研究部】
～共通理解・共通実践～
○学級経営・icheck の活用
○学習の約束の徹底
○確実な授業実践、ノート指導、修正
○授業等に必要な交流・連絡・相談・提案・共有
○構想案作り及び検討

【学習環境整備部】
○教室の環境設営（ICT の活用）
○授業等に必要な物の作成・掲示